

飯能西中だより



天覧山 12月号

飯能市立飯能西中学校
学校だより
令和3年度 第9号
令和3年12月13日発行

<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立 共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

皆様に支えられ 飯能西中学校は今年50周年の節目を迎えました。

掃除から学ぶこと

校長 中村 公一

落ち葉の季節を終えて一段と朝夕の冷え込みが感じられるようになってきました。落ち葉掃きをしていると落葉の種類が桜、ケヤキ、カラマツ、イチョウと次第に変わっていくのを見ながら秋の深まりを感じることができるのですが、実はこの落ち葉掃きという作業がとても大変なのです。特に敷地が広い学校だと、掃き終わる頃には後から散った葉っぱがたくさん落ちているので、いくら掃いてもあまり意味がないようにさえ思えてきます。幸い本校の用務員さんは本当によく手入れをしてくださっているので助かっているのですが、どの学校においてもこの季節は落ち葉掃きが頭痛の種となっています。掃いておかないとやがて落ち葉が腐ってしまい、コンクリートの階段や駐車場などが汚くなってしまいます。こまめに掃除をしていないと自分では気が付かないうちに汚くなってしまうものなのです。

気がつかないうちに汚くなってしまふという点では人の心もよく似ていると思います。人の心というのは不思議なもので、いつも汚れた環境の中で暮らしていると、そのうちに汚れていることに慣れ、やがては汚れていることにすら気がつかないようになってしまいます。だからこそ「毎日掃除をしてきれいにすることが大切なのだな」とこの歳になって改めて強く感じます。時間のあるときに校舎の中を掃除してみるのですが、汚れていないように見えても結構ゴミなどが落ちているもので、特に気になるのは蜘蛛の巣です。廊下や階段の隅には、よく見るとチリグモの巣が毎日のようについています。普段気がつかない小さなゴミなどでも、探す気になって見ていると目に留まるようになってくるのですから、これもまた不思議なことだと思います。

人によって程度の差こそあれ、自分が「美しくあること」を望まない人はいないことでしょう。洋服、美容、ダイエット、趣味やスポーツなど、私たちがおしゃれな生き方を楽しむというのも「美しくあること」への願望があるからなのではないでしょうか。洋服などのように目に見える物のおしゃれはお金さえかければすぐにでもできるでしょう。ところが心のおしゃれというものはなかなかできるものではありません。心は取り出して磨くことができないからです。以前、働いていた場所で「日本を美しくする会」を創った鍵山秀三郎（株式会社イエローハットの創業者）さんから次のようなお話を聞いたことがあります。「心は取り出して磨くことができない。なので目の前にあるものを磨く。それが汚い物であればあるほどいい。みんなが嫌がるようなトイレ掃除は靦面。ただひたすらにきれいにする。そうすれば見えなかった汚れが見えてくる。そしてそれがきれいになったとき自分の心もきれいになっているのを実感できるはず。身の回りの物が汚ければ心も汚くなる。身の回りの物がきれいになれば心もきれいになってくる。とにかくやってみれば分かります。やらなければ分かりません。」というのです。

私がまだ20代の頃、あるワークショップに参加して、渋谷の駅前で清掃活動を行ったことがあります。ハチ公の前やスペイン坂などで「ただひたすら誰とも会話をせず無言で1時間掃除を続けてゴミ袋をいっぱいにする」というミッションでした。もちろん最初は、汚いやら、恥ずかしいやら、面倒くさいやらとにかく嫌で嫌でたまりませんでした。けれども、他の参加者が一生懸命道路にへばりついたガムをはがしている姿を見たとき、私の心の中で何かが動いたのです。「よしやってみよう」そう思ったのです。そこからは恥ずかしさや汚い物への躊躇はありません、それどころか、あそこにも、ここにもゴミが落ちているのが見えてくるのです。私のところに「お願いしていいですか」とゴミを持って来てくれる人もいました。1時間後、なんともいえない心地よさ、自分にはどんなこともできそうだという自信、渋谷の街中で味わった高原にでもいるかのようなすがすがしさは今も忘れません。

私たちにとって掃除とは、自分の周りをただひたすらきれいにすることで心を磨くことなのだと思います。

校長講話

最近いろいろなところでロボットを見かけるようになってきました。自宅にお掃除用のロボットがあるという人もいるのではないのでしょうか。特にお店などではAI技術の進歩もあり無人化がかなりの勢いで進んでいます。例えばガソリンスタンドやスーパーマーケットではセルフ精算が当たり前になってきていますし、受付をロボットが行う飲食店も増えてきました。またドローンを使った配達なども実証実験が盛んに行われており、これまでは人がやっていた仕事を機械がするようになってきたわけです。また、地球全体の人口は増えていますが、これまで経済先進国と言われてきた国々では人口が減少しています。人口の減少に伴い、以前のような「たくさん造ってたくさん売る」というビジネスは通用しなくなり、私たち大人にとっても未知の世界が既に始まっているのです。

AIの発達によりロボットやコンピュータに出来る仕事がなくなっていく一方で、AIやロボットなどに出来ない仕事はなくなることはありません。言い方を変えれば、知恵を付けた人の仕事はこれからも無くなることはないということになります。なので私たちは学ぶ必要があるのです。生徒の皆さんの中には学校を出れば勉強しなくてもいいと思っている人がいるかもしれませんが、これからは大人であっても、就職した後であっても学び続けなければならない時代がやってきます。体を鍛えるためには苦しくてもある程度は我慢することが必要のように、頭を鍛えるためにも我慢が必要です。けれどもそうやって得ることができた知識や知恵は皆さんにとっての財産なのです。そしてその財産は誰にも奪われることがありませんし災害で失うこともありません。あえて大人向きに言うのであれば、学びに向かうことは誰もが出来る資産形成なのです。

これからの時代

- ・世界の人口は増え資源は足りなくなる
- ・先進国の人口は減る
いい暮らしをするためにはコストがかかる
→子どもの数は減り人口も減る
→仕事が減る→経済は衰退する
(人口オーナス)
- ・AIの進歩と移民の増加
誰にでも出来る仕事は無くなる
誰にでも出来る仕事 だけでは生活できなくなる

これからの時代

- ・勉強なんて出来なくても
仕事はいくらでもある?⇒×
 - ・コンピュータに出来ない仕事はある
→芸術など心を表現すること
→理論や法則を考え出すこと
→問題を見つけ出すこと
- 知恵をつけた人が仕事に就ける

だから学ぶ

- ・体を鍛える為には我慢が必要な
ように頭を鍛える為にも我慢が必要
 - ・勉強して得た知識や知恵は財産
→だれにも奪えない
→地震や火事でも失われない
→誰でも作ることが出来る
- 学ぶことで人生を変えることができる

皆さんにとっては全く関係が無いことのようなのですが

生徒の皆さんへ

80年前の12月8日に日本は世界中を相手に戦争を始め、その後の約3年半の期間で三百数十万人の命を奪ったという史実を知っておかなくてははいけません。80年前のこの日、日本軍はハワイにあるアメリカ軍基地を一方向的に攻撃しました。アメリカ側には2千人以上、日本側にも60人以上の死者があったのにもかかわらず、当時の日本では戦争が始まったことを祝う催しが各地で開かれました。開戦して半年も経たぬうちに東南アジアの各地で戦闘を続ける日本軍は多くの戦死者を出し、物資も不足して悲惨な状況になりつつあったのですが、戦死した人を軍神として崇(あが)め、戦争で死ぬことを美化し、より多くの若者を戦場に送り込み戦争を継続していったのです。結局、広島と長崎に原子爆弾を落とされるまで戦争をやめられませんでした。これは、当時の日本人が愚かだったというような単純なお話ではありません。当時の日本にも良識ある人々はたくさんいました。しかし、戦争というのは一旦始めてしまうと誰にも止めることが出来なくなってしまうものなのです。皆さんには、このことを子どもたちにきちんと伝えられる大人になってほしいと思います。

○ 12月・1月の主な行事予定 ○

12月18日(土) 学校運営協議会
生徒は登校しません
22日(水) 4時間授業、給食最終日
23日(木) 3時間授業
24日(金) 2学期終業式

1月11日(火) 3学期始業式
給食なし
12日(水) 給食開始
27日(木) 1・2年実力テスト
学校運営協議会(12月18日(土)開催)
の傍聴を希望される方は、本校教頭までお申し出ください。